**令和３年度上期事業報告について**

1. **令和３年度上期事業報告**

令和３年度上期の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然とし

て厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増して

おり、いわゆる「Ｋ字回復」といわれる業種による二極化がみられる状況にあります。

先行きについては、ワクチン接種の促進や海外経済の改善等により、持ち直しが期

待されるが、新たなコロナウイルスの変異株の感染拡大による下振れリスクに注意す

る必要があります。

輸出入をみると、輸出は緩やかな増加が続いており、輸入はこのところ持ち直しの

動きに足踏みがみられる状況です。

こうした中、本年度上期の当組合管轄の貨物取扱い実績は２，５５８，６０２トン

で、前年度上期の２，３８２，７２８トンに比較して、１７５，８７４トンの増加で、

１０７．４％の取扱いとなりました。

野積場の貨物構成では、木材の取扱いが２５，８６８トンで、前年度上期比

２９３．９％で大幅な増加となりました。鋼材は輸出入･内貨併せて４０，０５９トン

を取扱い前年度上期比１６０．２％となり、その他の一般貨物も輸出入･内貨併せて

６５７，５４４トンの取扱いで前年度上期比１１３．４％となりました。

市原地区では、内貨スクラップ･鉱滓等を２２０，００４トン取扱い前年度上期比

２０８．３％と増加いたしましたが､北袖ヶ浦地区では内貨スクラップの取扱いが減少

し前年度上期比７０．６％となりました。

完成自動車は輸出入・国内車併せて１１４，５４３台を取扱いました。輸入車は

１２，６２６台で前年度上期比１４０．９％、輸出車は０台でした。国内車は

１０１，９１７台で前年度上期比１０７．３％と増加となりました。合計では前年度の

1０５，０１９台から９，５２４台増加し、前年度上期比１０９．１％でした。

上屋･テント倉庫については、７２，２９８トンを取扱い前年度上期比で１７，１０７

トン増加し１３１．０％となりました。

コンテナ貨物は、合計で３０，６８８ＴＥＵを取扱い前年度上期の

３４，２０４ＴＥＵから３，５１６ＴＥＵ減少し、前年度上期比８９．７％となりました。